

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	山形村社会福祉協議会	代表者	山口 隆也	法人・事業所の 特徴	法人としては、県内の社協と情報交換をしたり研修会を行い地域福祉や介護保険のサービスを提供している。 事業所としては近隣の同事業所との勉強会・研修会・情報交換の機会を持ち、また医療機関やボランティアとの連携をはかりながら、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう「通い」「訪問」「宿泊」を組み合わせ柔軟な対応を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 すばる	管理者	山口 睦		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	1人	0人	1人	2人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	担当者会議等決まった職員だけでなく全職員が交代で参加する事で、利用者を知る	担当者会議に職員は交代で参加することができた。会議内容を自分で記載することでその利用者を、今まで以上に知ることができた	職員全員が事業所自己評価に取り組んでいることがわかる 具体的ではないと思われる改善計画がありました	テーマごとの改善計画を具体的にたてることによって、職員が意識しやすくなる
B. 事業所のしつらえ・環境	家族との会話の中で、事業所に入りやすいですかと聞く	送迎時家族がいることは少なく、居ても忙しそうにしているため、変わったことがあれば手短かく話すのみになってしまった	コロナ禍のため事業所への訪問が出来ず、環境についてはわかりません	感染予防対策を強化した上で、保健センターに来た際は、事業所の見学を誘い事業所のしつらえ・環境を見てもらう
C. 事業所と地域のかかわり	職員は地域の行事やイベントに参加する	コロナ禍のため地域の行事やイベントは中止になった	コロナ禍での地域との関わりについて検討が必要ではないか 地域の行事やイベントに参加できなくても、どんなことが行われてきたか話題にすることで、繋がりが持てないでしょうか	行事やイベントが開催される地区に住む職員は、その行事やイベントに参加することで地域の方と話す機会を増やす
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者に地区内で行って見たい場所があるか聞く 地区行事を年度初めに把握して具体的にたてる	コロナ禍のため各行事が中止の方向で動いたため改善計画の取組みをしなかった	利用者以外の心配な方が存在しないから関わりがないという事ですか コロナ禍で地域に出向くことが出来なかったと思いますが、それに代わるものが何かあるか検討しても良いのではないか	コロナ禍で地域に出向くことができないとしても、利用者が地域と繋がりを感ずる取組みを考える

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>会議の中で利用者の事例検討を行うことで、地域の困りごとにも話題にしてもらう</p>	<p>コロナ禍のため会議開催が出来なかったため、利用者の事例検討も地域の困りごとにも聞くことが出来なかった</p>	<p>コロナ禍で会議がほとんど開催されず資料での対応だったが、次年度は会議が開催できれば良いと思います</p>	<p>感染予防対策の強化を図り会議が開催できるようにすることで意見を聞くことができる。 開催が難しい状況であれば電話で意見を聞くこともできる</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>台風豪雨の直撃予報それに伴い三間沢川の水位上昇時の対応のマニュアルを作成し家族へ周知する</p>	<p>台風豪雨などに伴う災害対応マニュアルの作成ができた 夜勤時の災害対応マニュアルの作成ができた 村の警戒レベル3の発生によりその地区に住む独居利用者に避難を提案して事業所に宿泊することができた 豪雨により三間沢川の水位上昇が著しくあったので、宿泊予定利用者の家族と連携を取り宿泊キャンセルとなった防災マニュアルの家族への周知はまだできていない</p>	<p>防災計画の内容までは知らない</p>	<p>会議の中で防災計画の話をする避難訓練の日程を伝え参加を誘う</p>